

## まえがき

なぜ、この本を書こうとするのか？

日本経済は依然として低迷を脱け出せていない。本当に明るい方向に向かっているのかさえ、自信が持てなくなっている。その原因は政策運営の失敗にあるという批判が強い。こうした状況を見ると、過去10年あるいは15年、経済政策運営の一端に連なっていた身としては、「もう一步の努力が足りなかったのでは？」という深刻な反省に追い込まれる。自らの見聞、経験を踏まえながら、もう一度問題を振り返ってみたいと考えた。

それに加え、最近の経済論議には懸念を感じることが多い。一部分を誇張して、全体像を把握することに欠けていないか。部分的評価で政策が決められ、問題をかえって悪化させていないか。そうした視点に立つて、経済政策を再考してみる必要がある。とりわけ、視野が足元に限定され、世界や将来が考えに入ってきていない。たとえば、物価が1%下がったと行って、国家が減じるわけではない。それよりも「モラルハザード」が広がることのほうがよほど深刻である。

本書ではこうした考え方で、日本経済が抱えてきた問題を整理し、全体像を把握して、日本経済の将来を切り開く方策を追求していきたい。日本経済の先行きを心配し、明る

い展望を創ろうとしている方々に、少しでも参考になれば幸いである。

本書を書きながら、これまでいかに多くの方々に教えを受け、また助力を頂いたか、を改めて感じた。それらを十分生かせなかったことを心苦しく思うとともに、個別に御名前はあげないが、ここで心からの感謝を捧げたい。

本書の出版には、ダイヤモンド社出版局北川副編集長にたいへんお世話になった。ここに感謝したい。

また、本書が曲がりなりにも出来上がったのは、日頃様々な局面で支えて下さっている方々のおかげである。

今年の春はとくに、桜をはじめ、花々が見事に咲いた。変わることはない自然の力に感動する日々、ささやかながら、一冊の本を完成できたことはこの上ない幸福である。

2001年4月

土志田 征一